

主題：

諸召会における失敗、召会の墮落、
召会における勝利者、召会の回復、召会の各段階

メッセージ 8

召会における勝利者(4)

永遠の命、すなわち非受造の、破壊できない、不朽の命を享受する。

その命の中で、わたしたちは救われ、また王として支配する

聖書：ローマ 5:10,17,21

- I. わたしたちの肉体には生物学的な命（ギリシャ語、ビオス、bios）があり、わたしたちの魂には心理的な命（ギリシャ語、プシュケ、psuche）がありますが、わたしたちは再生されたとき、もう一つの命、すなわち永遠の命（ギリシャ語、ゾーエ、zoe）を得ました——ヨハネ14:6. 10:10. I コリント15:45後半. 使徒11:18. ローマ8:10. 5:17:
- A. 永遠の命は、永続する命であるだけでなく、時間と性質の両方において永遠である命でもあります——ヨハネ 3:16,36. I ヨハネ 1:2。
 - B. 永遠の命は、神の非受造の命、破壊できない命、不朽の命です——エペソ 4:18. ヘブル 7:16. II テモテ 1:10。
 - C. 永遠の命は、神の御子の中にあり、神の御子である命です——I ヨハネ 5:11-12. 1:2. ヨハネ 1:4. 14:6。
 - D. 永遠の命は、信者たちを再生させ、信者たちの命となって、信者たちを神の子供たち、キリストの肢体とならせます——コロサイ 3:4 前半. ヨハネ 1:12-13. エペソ 5:30。
 - E. 永遠の命は、わたしたちが人の命に信頼することなく、保持すべき命です——I テモテ 6:12。
- II. 神からわたしたちへの祝福としての永遠の命は、三つの段階の中にあり、この三つの段階は三つの時代の中にあります：
- A. 現在の時代、すなわち召会時代において、わたしたちは永遠の命を、わたしたちが享受する、またそれによって生きる無代価の賜物として受けます——ヨハネ 3:15-16。
 - B. 来たるべき時代、すなわち王国時代において、わたしたちは永遠の命を、この時代の享受以上に満ち満ちたその命の享受を褒賞として受け継ぎます——マタイ 19:17. ルカ 18:29-30. 啓 2:7。
 - 1. 勝利者たちにとって、千年期において永遠の命を受け継ぐことは、自分たちの名を命の書にとどめておかれることです—— 3:5。
 - 2. 勝利者たちは千年期において永遠の命を受け継ぐので、第二の死の害に遭うことはありません—— 2:11. 参照、20:11-15。
 - 3. 勝利者たちにとって千年期に永遠の命を受け継ぐことは、彼らが新エルサレムである神のパラダイスにある命の木から食べることを意味します。もしわたしたち

が召会の墮落の中のすべてのそらすものに勝利して、今日、召会の中で命の木であるキリストを享受するなら、来たるべき時代に、神のパラダイスにある命の木から食べることを褒賞として得ます—— 2:7 後半。

4. 勝利者たちは彼らの父の王国で太陽のように輝きます——マタイ 13:43,38. 5:20. ダニエル 12:3。
5. 来たるべき時代において、勝利者たちは天の王国の宴席にあずかります——マタイ 8:11. 26:29。
6. 来たるべき時代において、勝利者たちは褒賞を享受します。来たるべき時代に褒賞を受けるために、わたしたちはこの時代にキリストを忠実に享受する必要があります—— 5:11-12. 16:25-27. 祈りをもってイザヤ 57:20 のフットノート 1 を読むように。啓 22:12. II コリント 5:10. ヘブル 10:35. 11:26. I コリント 3:8 後半,12,14. 9:17,24. ペリピ 3:14。
7. 最終的に、召会における勝利者たちは千年期において新エルサレム、すなわちパラダイスとなります——啓 3:12. 2:7。

C. 永遠の時代において、その中心としての新エルサレムを伴う新天新地において、わたしたちは最も満ち満ちた祝福の中で永遠の命の究極的な完成を享受します—— 22:1-2,14. 参照、21:10-11。

III. 神はご自身の選びの民に永遠の命に至る悔い改めを与え、また彼らがこの命を受けるよう任命し、定めました——使徒 11:18. 13:48。

IV. 十字架上で死ぬキリストの義なる行為は、すべての人に命の義認をもたらします——ローマ 5:18 :

- A. 命は神の救いの目標です。こういうわけで義認は「命の」義認です。
- B. 義認を通して、わたしたちは神の義の標準に達し、合致したので、神は今、ご自身の命をわたしたちに分け与えることができます—— I コリント 1:30. エレミヤ 23:5-6。

V. 信者たちはこの命の新しさの中を歩きます——ローマ 6:4. 詩歌 364 番 1 節。

VI. 三一の神の命は三部分から成る人の中へと分与されて、再生、聖化、更新、造り変え、同形化、栄光化を通して、信者たちをこの命の中で主観的に救います——ローマ 5:10 後半. II コリント 5:4 後半 :

- A. 第一に、この命はその霊の中の神聖な命です——ローマ 8:2。
- B. 第二に、それは再生を通して、わたしたちの霊の中で命となります—— 10 節。
- C. それから、わたしたちの霊から、それはわたしたちの思いに浸透して、わたしたちの魂（思いは魂に属す）を造り変え、わたしたちの魂の中で命となります—— 6 節。
- D. 最終的に、それはわたしたちの体を飽和させて、体の中で命となって、究極的に、わたしたちの体の変貌、すなわち、わたしたちの体の贖いという結果になります—— 11 節. ペリピ 3:21. ローマ 8:23。

VII. 信者たちはすべての事の上で恵みをもって命の中で王として支配し、永遠の命に至る必要があります——5:17, 21 :

- A. 神の全体的な救いは、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物によって、わたしたちが命の中で王として支配するためです :

1. 義の賜物は神の法理的な贖いのためです。恵みはわたしたちが神の有機的な救いを経験するためです：
 - a. 義の賜物は、実際的な方法でわたしたちに適用された神の法理的な贖いです。神の有機的な救いは、神の法理的な贖いを通して絶えず維持される必要があります—— I ヨハネ 1:7,9. 啓 12:11。
 - b. 恵みは、わたしたちの有機的な救いのための、すべてに十分な供給としての神ご自身です。
2. 命の中で王として支配することは、神の有機的な救いを十分に経験することです。
- B. わたしたちは、神聖で、霊的で、天的で、王的な、王族の命をもって再生されました——マルコ 4:26. I ヨハネ 3:9. 参照、啓 11:15. 22:5。
- C. 命の中で王として支配することは、ローマ人への手紙第 6 章から第 16 章の中のあらゆるもののかぎです：
 1. わたしたちはこの光の中で、ローマ人への手紙第 6 章から第 16 章の中のあらゆるものを見ます。
 2. もしわたしたちが命の中で王として支配するなら、これらの章の中に提示されたすべての事柄の中にいます。
- D. 経験において、命の中で王として支配することは、神聖な命の支配の下にいることを意味します——参照、エゼキエル 1:22,26：
 1. キリストは、父の神聖な命の支配の下にいることによって、命の中で王として支配することの模範です——マタイ 8:9。
 2. パウロは、彼の命と務めにおいて、神聖な命の支配の下にいた人の模範です——II コリント 2:10-14。
 3. あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受けたすべての信者は、神聖な命の制約と制限を実行する必要があります。
- E. わたしたちが命の中で王として支配し、神聖な命の支配の下で生きた結果は、召会生活の中で表現された真の実際的なからだです。
- F. ローマ人への手紙第十二章から第十三章にあるからだの生活のそれぞれの項目は、神聖な命によって支配されることを要求します：
 1. わたしたちは神の慈しみによってとりこにされる必要があります—— 12:1 前半。
 2. わたしたちは自分の体を生きた犠牲としてささげなければなりません—— 1 節後半。
 3. わたしたちはこの時代にかたどられるべきではなく、思いが新しくされることによって造り変えられるべきです—— 2 節。
 4. わたしたちは自分自身について思うべきことを超えて、思い上がることなく、むしろ神がそれぞれに割り当てた信仰の度量にしたがって、冷静な思いで思うべきです。そうでないと、わたしたちはからだの生活の正しい秩序を無効にしてしまいます—— 3 節。
 5. 一つの体の中には多くの肢体があり、そしてすべての肢体が同じ機能を持っていないように、わたしたちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです—— 4-5 節。

- G. わたしたちは命の中で王として支配することによって、からだの生活のために、最高の美德による生活を生きる必要があります：
1. わたしたちの愛に偽善があってはならず、兄弟愛の中で互いに温かく愛し合うべきです—— 9 節前半,10 節前半。
 2. わたしたちは熱心で怠けることなく、霊の中で燃え、主に仕えるべきです—— 11 節。
 3. わたしたちは患難の中で耐え忍ぶべきです—— 12 節。
 4. わたしたちは喜ぶ人たちと共に喜び、泣く人たちと共に泣くべきです—— 15 節。
 5. わたしたちはできる限り、すべての人と平和に生活すべきです—— 18 節。
- H. 命の中で王として支配することは、「永遠の命に至るため」です—— 5:21 :
1. 「永遠の命に至るため」は特別な表現です。
 2. ヨハネによる福音書第 4 章 14 節後半は言います、「わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」：
 - a. 「へと（ローマ 5:21 では『に至るため』）」は目的地について語っており、それはまた「となる」あるいは「である」を意味します。
 - b. わたしたちは最終的に新エルサレム、永遠の命の総合計となります。わたしたちは神化されて、ゾーエの都、命の都となります。
 - c. わたしたちが命の中で王として支配することの結果また目標は、新エルサレム、すなわち神と人との結合とミングリングの宇宙的な合併です。